

第9回新湊みなとまちづくり戦略会議議事録

日時：平成20年3月13日（木）

午前10時～午前11時30分

場所：伏木富山港湾事務所新湊事務所

みなとふれあい館

事務局：ただいまから、第9回新湊みなとまちづくり戦略会議を開催いたします。

事務局：～出席アドバイザー、委員の紹介～

事務局：それでは、事務局を代表いたしまして、産業経済部長がごあいさつを申し上げます。

事務局長：皆さん、おはようございます。いつもお世話になりありがとうございます。お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、アドバイザーの方々にもご出席を賜り、ありがとうございます。

さて、本年度も3月ということで押し迫りましたが、新湊みなとまちづくり戦略会議も、本年度で3回、その他ワーキンググループ等でいろいろとお世話になっております。おかげさまで、本年度はワーキンググループの活動もありまして、港と市街地を結ぶ公共サイン、また、看板等、アクセス関係について成果が上がっておりまして、この後、順次担当課と実施・整備していきたいと考えております。これを一つとりましても、いよいよをもって新湊のみなとまちづくり方策が、歩みは派手ではありませんが、着実に一步一步前進しているものと考えています。また、皆様方にも引き続き、これからはみなとまちづくりの更なる促進のために、ご尽力をお願いしたいと思います。また、射水市の新湊地区では、今事務局にもおります都市整備部の管轄で川の駅の整備を進めておりまして、今年度末にはその概要もはっきりしてくると思います。この後、正式名称も決まりました新湊大橋、あいの風プロムナードを核として、一つ一つみなとまちづくり方策が進んでいくよう、私どもも一生懸命やらせていただきますし、市民の期待もありますし、皆様方のご尽力もありまして、この後も着実に進めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。なお、皆様方には次年度以降も戦略会議委員として、市のためにご協力をいただきたいと思いますと考えておりますので、よろしくお願いいたします。なお、最

後になりますが、この机の上にあります、私ども産業経済部の射水ブランドの推進計画の中のキャッチコピーとロゴマークとしまして、「イミズムズムズ」水の精の王様をイメージし、その躍動し、発展し活動するものをイメージ化したものでありまして、これを認定させていただきましたので、広く市民の方々とそれぞれ関係団体に推進をお願いしたいと考えております。皆様方にも、PR等にご協力いただきたいと思います。今日は、押し迫った時期ではありますが、今年度の包括的な部分も含め、また、この後協議していただくことが、来年度につながるように、事務局としても一生懸命がんばりますので、よろしくお願いをいたしまして、簡単ではございますが、冒頭のあいさつといたします。今日は、本当にありがとうございます。

事務局： それでは、さっそく議事に移りたいと思います。委員長、よろしくをお願いします。

委員長： 皆さん、おはようございます。この会議も第9回になり、今日は1年間の報告と、事務局が視察してきた報告です。しかし、それをしながら、ぜひお考えいただきたいことがあります。この会議は、戦略会議という名称になっています。それは、前にも申し上げましたように、平成17年3月に新湊みなとまちづくり方策を時間をかけて出来上がっています。ここに具体的にプランが全部載っているわけです。射水市に移行する段階で、これが全部なくなってしまうと、絵に描いた餅になってしまいますので、こういったものを具体化するようなものを、そして単なる委員会ではなくて、行動を伴いながら東西埋立地の活性化を実現していこうと、実現の元になるものはここに書いてあるわけですから、これをいかに定着させていくかということでこの会議があるわけです。これも9回になりまして、来年度は希望していたとおりに、同じメンバーで継続することになります。そこで、そろそろ具体的な、射水市が抱える「協働」ですね、それを考えながらまちづくりをしていく、戦略会議で東西埋立地の活性化をやりたいということを考えるわけです。私自身も、事務局と連絡を取って少々覚悟して来年度は動きたいと思っておりますので、ポイントはアイデアです。大橋も、いったん始まればどんどん出来てくるわけです。むしろ、それをどうやって利用して、どう持っていくかということがなかなかないものですから、ぜひ、この戦略会議で、戦略と言う名に値するようなソフトな方面を、もちろんハードも伴うわけですが、やはりお金の関係でここに住んでいる人たちがどのようなアイデアでソフトを出していくかということがポイントになろうかと思いますので、今日の報告で、どの点をこの場で議論

していくかということを考えていただければ幸いです。来年度のことも含めて、皆さんからの意見をお願いします。今日は、1時間半の予定で、11時30分には終わりたいと思っております。

それでは、方策に基づく、今までの経過、実現しているものは少ないのですが、どんな状態になっているのかおさらいをして、現状を把握していただきたいと思います。

事務局：今年度最後の戦略会議ということで、これまでの会議の開催概要と経過報告をさせていただきたいと思います。資料No.1でございます。まず、戦略会議の開催概要です。通算して7回目、今年度の始めの会議は、5月14日にみなとふれあい館で開催させていただきました。議事につきましては、昨年度の終わりに、海王丸パークから新湊地区の中心市街地へ観光客等を誘導する案内板の設置箇所の調査を行うということで話を進めておりまして、会議ではワーキング部会を設置して調査をするということで、それについて話し合っております。会議後、新湊大橋の現地視察を行ってまいりました。続きまして、第8回会議です。第8回会議は11月15日に海王丸パークの中にございます日本海交流センターで行っております。第8回会議は、ワーキング部会が調査に基づき作成した報告書の提出を受けております。そしてその報告書の中身について、委員の皆さんと話し合い、報告書の追加部分について検討してきたところです。続きまして、第9回会議については、ただいま開催している会議でございます。つづきまして裏面をご覧ください。第7回会議で設置をすることとなりましたワーキング部会に関してでございます。第1回ワーキング部会は、6月17日（日）に海王丸パーク内の日本海交流センターに集まりまして、委員15名、戦略会議委員1名、事務局4名の計20名の参加で、設置箇所の現地調査を行っております。海王丸パークから基点、基点と申しますと中心市街地への入り口になるのですが、そこまでの設置箇所や内川、また商店街までの設置箇所を、それぞれ班ごとに分かれて調査をしております。その取りまとめた資料を、商船高専の2名の委員に協力をいただき、統合を行っております。それが、7月21日（土）でして、射水市役所新湊庁舎で行っております。その結果41箇所に統合させていただいております。第2回のワーキング部会は、その41箇所の統合作業に基づきまして、委員の参加を得て、報告書の内容を検討しております。第3回は、第2回の報告書の検討の内容を生かしまして、更により良い物をとという形で、ご提示をさせていただきご承認をいただいております。これは、9月27日でございます。この報告書を第8回戦略会議で受けておるわけでございます。

続きまして、第1段階事業の現況でございます。A3の資料2枚をご覧ください。また、方策の製本を持っていらっしゃいましたら、15ページに場所の提示をしてございますので、併せてご覧ください。それでは、第一段階の事業の現況ということで、ご説明させていただきます。第一段階の事業とは、皆さんもご存知のとおり、新湊大橋の完成前にできればいいと考えられる事業でございます。今回の調査の回答にあたっては、土地管理者の富山県、また、現在事業を進めている市の担当課のほうに、現況と今後の取組について回答を求めたものです。基本的には、多くの事業については、民間事業者の誘導を目的とするものでございます。中でも一部の事業が、射水市の都市整備部の担当になりましょうか、進んでいるものもでございます。それでは、順に主な事業のみご説明させていただきます。まず、海王町の交通機能であります遊覧船乗り場の導入についてであります。これは、内川、富山新港、新湊大橋を巡る遊覧船として、市街地との連絡機能も担うものでございます。現況は、現在、新湊観光船株が遊覧船を運航していらっしゃいます。こちらは、内川のほうも遊覧されております。今後の取組予定であります、川の駅が今秋頃に完成する予定でありまして、遊覧のみならず、市街地への移動手段という効果もあると考えられますので、今後、そうしたものもPRしていきたいと考えております。続きまして、公共交通でございます。コミュニティバスの増便や路線変更などによる利便性の向上でございます。

コミュニティバスについては、現在、海王町に入っているのは、新湊・放生津線という1本の路線が走行しております。海王丸パークにバス停がございますが、平成19年度の乗降者は、約320名程度でございます。今後の予定でございますが、現在、新湊・放生津線と市民病院・大門駅線の接続・一本化を予定しております。今後、そういった予定から、JRと一本でつながるということですので、そうした方面のPRもしていきたいと考えております。次に、海王町の集客施設でございます。レストラン、オープンカフェ、体験型宿泊施設、温浴施設とございます。これは、民間主導でというのが事務局としての基本的な考え方ではありますが、1つはまず、複合施設であったほうがいいのではないかとというのが事務局としての考え方でございます。また、その中の体験型宿泊施設ですが、同施設については、平成15年度に「新漁村コミュニティ基盤整備事業基本計画策定委員会」を設置し、この中で協議を重ね、その結果を踏まえて、平成16年3月に報告書が提出されているところです。しかし、その後、関係機関の意見の相違により、計画は全く進捗していない状況でございます。それで、こちらのほうの今後の取組予定なので

すが、今ほども申しましたが複合施設の建設が望ましいことから、今後
も、民間事業者が出てきてくれることを誘導していく必要があるかと考
えています。続きまして、裏面をご覧ください。海王町のレクリエーシ
ョン機能、海王丸パークの充実というところでございます。現在はラジ
コン広場などの施設もでございます。また、海洋教室などのソフト事業も
展開されております。現在は、財団で海洋教室や海に面していない市町
村へ行って、移動の海洋教室ということで、海の知識を教える取り組み
も行っています。また、カッター・セーリング教室も実施されていると
ころで、昨年4月にはみなとオアシスにも登録されています。今後、ま
すます港の魅力を発信して、来訪者の利便性の向上を図ってきたところ
でございます。今後も、財団をはじめ国、県、市が一丸となって、にぎ
わいの創出に努めていきたいということでございます。順に、海竜町の
元気の森公園でございます。パークゴルフ場などを配置した地域の緑の
核となる公園整備。市民の日常的な健康づくりに寄与するものでござい
ます。現在、8.4haの全体計画面積の内、4.2haを使っており
まして、パークゴルフも盛んにされております。これは、今後も引き続
き整備に努めるということで、回答をいただいております。続きまして、
研究機関との連携強化の内、リサイクル研究施設でございます。これは、
浄化センターや周辺企業と連携した研究施設や流木・輸入材加工の廃棄
物などのバイオマス活用研究施設の誘致・設置ということでございま
すが、現況は、射水市の事業ですが、北陸農政局直轄のソフト事業として、
市内に存在するバイオマス賦存量の調査を行っております。調査結果を
もとに、バイオマスタウン構想の策定に向けた庁内協議を進め、構想策
定の方向を探ることとしております。

平成20年度に、行政、民間企業、研究機関、市民で構成する協議会
を設置し、バイオマスタウン構想を策定する予定でございます。構想は、
平成20年度内に公表し、平成21年度以降に構想の実現に向けて、担
当部署が取組んでいく予定にしております。続きまして、3ページ目を
ご覧ください。市街地でございます。はじめに、内川の景観整備でござ
います。日本のみなとまちらしさを創出する緑化や風景、そして遊歩道
やポケットパーク及び休憩施設の整備でございます。昨年度、二の丸橋
が放生津城をイメージして完成しております。藤見橋におきましては、
曳山をモチーフにして完成しました。また、西新町の防波堤には「内川
アート」と称しまして、地元の画家の作品44点を展示し、魅力的な水
辺空間を創出しております。今後は、現在中新橋の架け替え工事を行な

っております。歩行者専用の橋として川の歴史的風情を創出するとともに、あたたかみのある「木の橋」をイメージし計画しているところです。また、山王町公園内に多目的トイレを設置して、遊歩道を利用される方々への利便性の向上に努めたいと考えております。続きまして、市街地の曳山展示施設でございます。市街地に点在する曳山格納施設で、それらの見学を通して観光客の皆様にもちなかを歩いていただきたいという趣旨なのですが、現在、射水市曳山格納施設整備事業補助金交付要綱を制定しまして、観光的要素を含めた曳山格納施設を建設する場合には、補助金を交付しているところでございます。今後は、平成20年4月1日から補助金の限度額を250万円から500万円に拡大する予定にしております。続きまして、川の駅でございます。

射水ブランドの発信と水辺と市街地を結ぶ玄関口として新湊地区中心市街地の活性化と曳山等を中心とした地域文化・コミュニティの振興を図ることを目的に（仮称）川の駅を平成20年度中に建設するため、準備を進めているところでございます。今後は、市民や観光客にとって魅力ある施設であると同時に、サービスの提供においても来館者のニーズにあった効果的な集客が図れるよう創意工夫のある運営が必要であることから、指定管理者制度による民間能力の積極的な活用を検討しております。続きまして、サポート機能の観光面でございます。観光ボランティアの活動ですが、現在市内5つの観光ボランティアが活動されています。今後は、観光ボランティア団体による研修・視察等を実施して、関係者や一般市民を対象にした研修会を開催し、射水市が一体となったおもてなしの心の醸成を図ることとしております。続きまして、新たな移動手段として遊覧船乗り場でございます。移動自体が魅力となる遊覧船の運航と中心市街地側の乗船場の整備ですが、こちらの方は先ほど一部お話ししました。ただ、勤労青少年ホーム前にも、乗り場はございます。これは整備済みでございます。今後は、勤労青少年ホーム前の乗り場と、川の駅前も必要に応じ整備を行う予定にしており、新湊観光船㈱と係留している漁船所有者との調整を促進し、ぜひとも移動手段としてPRしていきたいと考えております。続きまして、レンタサイクルでございます。中心市街地と海王丸パークを、レンタサイクルで結べばどうかという提案でございます。こちら、現在は、NPO法人「新湊くらし応援団」に依頼し、実験的にレンタサイクルを実施しておりましたが、季節が悪かったためかPR不足のためか実績がなかった。今後は、レンタサイクル用モデルルートの設定やPRの強化など、レンタサイクル事業の実施に

向け検討を図っていきたいと考えております。遊歩道・案内板でございます。案内板につきましては、こちらの戦略会議ワーキング部会が調査したものを11月にこの会議で検討していただき、都市整備部都市計画課に提出してございます。今後は、その報告書に基づき予算の範囲内で順次整備を図られることとなっております。

続きまして、一方通行の見直しでございます。この一方通行の見直しは、新町商店街と立町商店街を念頭に考えております。現在の状況ですが、道路幅員が狭いため、現在、一方通行規制となっております。担当の生活安全課から警察へお話を聞いていただいたのですが、道路幅が広がり、両側通行が検討できるのであれば、一方通行が解除されることもあるとのことでした。まず、東西新町通りを現地調査を行ったところ、幅員を確保するためには、最低でも側溝の暗渠化や無電柱化が必要でありました。また、立町通りについては、西側歩道を撤去すれば、幅員を確保できる状況です。ただ、歩道自身が地元住民の意向で作られております。ですので、撤去については、住民の意向、希望が最優先されるということでお聞きしております。このことから、今後一方通行を解除するということで動きを出すということであれば、まず、新町商店街は根本的な道路拡幅が必要であります。また、立町商店街は、先ほども申しましたが、住民の希望で設置した歩道ですので、住民との話し合いが必要になろうかと思えます。以上が、第一段階の主な事業の現況と今後の取組予定でございます。

委員長： 今説明があった事業が、新湊大橋ができるまでにすればいいというプランの現在の状況です。この戦略会議で出た意見も、事務局で整理をして、可能な限りつめていくというのはお分かりであろうと思えます。それと今年度は海王丸パークから旧市街地に行く案内板について、所属委員を中心として、また商船高専の若い生徒に動いていただきました。それで、こうしたものに基づきまして、いろいろ意見を出していただきたいと思います。その中で、新年度にこの事業に重点を置いて、こういった方法でといった、いろいろなアイデアを出していただければと思います。それを30分くらいしたいと思います。自由に意見交換をお願いします。

委員： すみません、少し分からないのですが、バイオマスというのはどのようなものですか。

事務局： 石油などの化石燃料ではなく、自然の木屑とかそういったものを

活かして、いろいろな資源を活かしてエネルギーや肥料等に変えていくという事業です。例えば、具体的にいえば、アメリカですととうもろこしを使って、燃料に変えるとか、ブラジルですと、さとうきびを使って燃料に変えるといった動きが出てきています。あとは、稲の籾殻を使って肥料や燃料にするとか、いろいろあります。そういったものを活用して、地球にやさしい燃料を使っていくというシステムです。

委員：海竜町は、木屑を使ってということなんですか。

事務局：20年度に作ろうとしているバイオマスタウン構想は、射水市内にこういった資源があるか調査をしています。例えば、木材の廃材を利用してやるとか、稲からこういったものがつくれるとか、いろいろなものがありますが、そういった調査をしております。射水市内にある資源を使って、電力までもっていけるのか、燃料として使えるのかということを20年度に検討していくという状況です。だから、具体的にこういったものが出来るかということころまではいっていないです。できれば、新湊大橋のライトアップ事業に対して、そういったバイオマスを利用して発電に使えればいいという気持ちはありますが、できるかどうか、支援はあるかということも含めて、20年度にしていくという状況です。

委員長：今のバイオマスだけではなくて、リサイクル関係は方策の中でも議論されて、東埋立地にそうした研究施設で、具体的な第2段階になったときは、それを誘致して、東地区にある処理場を含めた、市民生活に有効になるような新しい商品につなげていく研究施設の誘致ということでセットしてきました。だから、射水市全体の研究成果から、ここへ来るのかは分かりませんが、この時に問題になっていたのは、木材のパーク、現在は少なくなってきていますが、そうしたものが意見として出されていました。ですから、環境産業と言うか、市民生活と環境の場所としてセットしてあります。関係するところとしては、そういうところですか。これは、県立大学と連携していますか。

事務局：まだそこまでは進んでいません。相談には行っています。

委員：問題は、資源の量ですね。

事務局：射水市内には、それほど資源がないのではという気がしています。

委員： 来年からは木材も入りませんから。チップの話ですが、もう不足していて、取り合いです。値段からいうと、現在は地下資源とかかわらないくらいです。あとは、使う側、消費する側の考え方ですね。少々高くてもそういったものを使おうという気持ちがあれば。

委員： 戦略会議の趣旨と外れるが、今朝の新聞に、中古車の輸出が、横浜港、名古屋港に次いで、第3位と出ていた。去年、自治会長の視察で名古屋港を見てきてつくづく感じたのは、これだけの港に対して背後地の工業用地がぜんぜん足りていない。名古屋なんて、莫大な土地だ。橋にしても片側三車線でもいくつもかかって、スケールがぜんぜん違う。だけど、背後地の広さがぜんぜん違う。だから中古車が多いんだけど、目にもつかない。射水市全部かかってでもこの港をカバーするのに足りない。何をいいたいかというと、この間から都市計画区域の見直しとか云々言っていますが、中古車のことを議会で言っておられますが、今では線引きをやめてしまって土地利用規制ではなく、土地利用計画をたてて誘導するやり方に変えていかなければ、県がまったく時代遅れである。以前は中古車の販売店を建物ではないと言っていたんですが、知事が国交省へ行って聞いてきたら建物でした、そんな馬鹿な話はない。だから、県が場当たりのであると、だから射水市がしっかりとやらなければ、この港に対する背後地は絶対に不足である。この戦略会議でお話することではないですが、背後地が不足しているためにどうにもならないというのが私のひとつの思いです。それから、せっかくの機会ですから言わせてもらいますが、おそらくこの、中古車輸出には税金がかかる。ターミナルチャージといって、県税がかかっているはずですが。これも、横浜、名古屋と比べてみるとうちは非常に安いのではないかと。一説によると、荷役業者がいただいているという声まで聞こえてきている。これは県の話で、市ではないのですが。ちょっとしっかりともらうものはもらってやることちゃんとしなかったら、それこそ今の大江の問題みたいなことがでてくる。だから、県に任せていてもだめだということを言いたかった。

委員： 中古車の話ができましたけれども、背後地が不足という話がありますけれども、実際的に、あの、間違っているのはいろんなところに点-in-しているということなんですね、中古車業者の店が。名古屋の話にもありましたけれども、決めてありますよね、港の周辺で。周辺区域の方に迷惑をかけたくないということで。ところが、富山新港はワンポートワンバースで積み込みをすると

いうことになっておりまして、本当は置く場所があるんですよ。置く場所があるんですけども、そこが有効に使えてない。で、小杉とかあの辺の、本当に交通が非常に頻繁に通るところに、ああいう業者がいると、事故とかいろいろ問題が出てくる。本当はああいう積み下ろしのトレーラーがちゃんと入る、積み下ろしができる巨大な土地が港の周りがあるので、逆に言えば先ほど原木が入らないという話をしましたけれども、そういった土地が余ってくるんです。これから現在の半分の量になります。だからそういったところに集約していくということをこれから考えていかなければならないと思います。

委員：私もね、排除したらだめだと思うのです。やっぱり、誘導すると、ここらへんにこいと。だからそういう政策がないもんだから、空き地はもうないので、するところが今はない。そこらへんは、射水市としてやっぱり、主導権を持たなかったら、県に任せていても、だめだと、原木とのからみもあるけど。それちょっと考えてほしいなという思いで、私らはみていきますけどね、正直言ってね。

委員長：まさに大きな問題になっていると思うんですけども、市ではどんな。

委員：今、委員がおっしゃったように、東側の道にあるやつでしょう。あそこ遊休地になっている。来年から丸太が入らないということであれば、そこはどういうふうに使っていくのか具体的に考えていかないと、ですから、今委員がおっしゃったように、中古車に使うのか、もう1年ないですから、来年の1月からですから、年末あたりから原木が入ってこない。対岸では、で、とんどん製材所を作っています。もう製品輸出ですからね。だから、今、富山新港あたりで原木の荷受とかやっていますけど、これ製品で来るとおそらく半分くらい実際に減りますから、製品を入れるときに今度、野積みしたらダメージを受けるので、もう倉庫を作る必要があるとか、そういう意味もかねて今度いろんな倉庫の色彩とかっていうのを見られてこられたのか、ということをお聞きしたいんですよ。

委員：あの、ひとつ例を挙げると、七尾港ありますけども、先日ポートセールスにいらっしゃって、七尾海陸と、七尾市役所と、七尾の商工会議所とこの三者がグループでこられて、七尾港へぜひ製品を入れてくださいと、向こうは倉庫がありますし、県営の倉庫が、使用料、それから保管料これらを減免す

ると、タダにすると、その陳情をこれから石川県にするから、ぜひ荷主さんとして証明してください、ということでこの辺りをまわってらっしゃる。富山新港はなにをしているのか、逆に言うと。

委員： だから、今の話を聞いていると、先手を打たなかったら、後手に回ったら手間になる。今の中古車も完全に後手に回ってしまっている。

委員： だからどちらのロシアにしても非常にすみにくい、あの、港だし、使いにくい港だしね。だからほかの港のほうが、魅力があるというふうになっていますよね。そういったところを行政も先頭になって考えてもらいたいなと。昔みたいに盗難車とかそういうのはもうほとんどないですから、ソーラス条約もできましたし、港に入る船は必ず検問を通らないといけませんし、そういった意味では、昔とは条件が違ような気がしますし、だからもっと市と県をあげて港の宣伝をしないと、こういった整備も大事なんですけど、それ以前に産業が非常に疲弊していくだろうと。ああいう条件をつけられたれうちも七尾を使おうかなと思いますもんね。

委員長： 何かありますか。発言。ないですか。

事務局長： 今ほど実際の利用者の方がそのように言っとられるくらいですから、今、十分、県とも協議して、県のほうもいろいろと、まあ、助成策等作っておられるのですが、考えたいと思います。それと、一点気になるのは、はたしてその、原木の積荷のあとのところに、たとえば中古車みたいなものを誘導した場合に、周りの人あたりはどういう風に思われるか、住民の方が、というのが少し気になるのですが、その辺、先ほど言われたように、確かに狭いもんだから、住民と接近してしましてね、ただきちつこう、境界というか、そういうことをすれば、できるものであれば、それがちょっと危惧の念もっているんですけど。

委員長： それはね、国際化の流れの中でやむを得ないんです、摩擦はね。それは、最小限どうするのか、というような妥協点が必要で、それを危惧しているからといってなんもしなかったら、だから、どこで接点を作るかということだけなので、それはやっぱり前に行く必要がある。危惧していたら全然前に行かない。

委員：私は、仕事から、パキスタンの方とよくお話するんですけど、彼ら自身も話し合いの場をすごく持ちたいんですよね。いつもこう県とかから言われて、わからないうちにだめだったのがよくなって、よくなったのがだめになったという、ままで、十年近くきているわけだから、交流協会としてもやっぱりそういう話し合いの場とかもやりたいなという気持ちはあるんですけど、なかなかこう、オッケーが出ないといったらあれなんですけど、そういう機会をぜひ作ってもらいたいなと。みんなこの新湊っていうか、射水市が好きで、仕事をここで、まあやりやすいのもあるかもしれないですけど、やっているの、ぜひ、そういう話し合いの場を。

委員長：戦略会議でこういう大勢の意見が出ているわけですから、あの、いろいろな問題があるかもわかりませんが、どのような形で戦略会議としては取り上げられるか、また事務局と相談しながら、新年度にですね、一步、わたしも非常に気になっているんですよ、あのままでいったら排除だけになって、港を使いたいという人を排除して、何をやっているのかなと、思うんですね、これこそ国際化のひとつのワンステップ、乗り越える試練があるんじゃないかと思うんですね。おそらく、市としては、港は管理していない、県が管理している、いろいろ行政のあれがあると思うんですけども、だけど、賑わいとして、戦略会議としてはその賑わいを生かして国際化、環日本海というのを意識して、賑わいを作ってますよね、これは。

委員：だからね、500億とか1,000億の、商いをやりたいのならね、そこからほんのちょっともらってもね、莫大な税金が入る。そのことを見過ぎて、あれよあれよという間に、こんな形になっている。だから、まったく無責任体質だと思う。

委員長：戦略会議としてどういうもっていき方がいいですか、どういう検討の仕方、いろいろあると思うんですね。この件はね、非常に気になって館先生とも、えー、去年、パキスタンの方を呼んで、要するに、あの、両方呼ぼうかと思ったんですよ、住民のほうと、だけど、ちょっと、あの、パキスタン側のほうだけを呼んで、意見を聞く会をやったんですよ。非常によかったですよ、議論がね、例えばそういうようなものを戦略会議としてね、まちづくり、港の活性化に向けて、議論の場を作るのか、ヒアリングをしながら、どういう方法がいいのかわかりませんが、ワーキンググループを作って、なんやら、戦略会議の位置づけをやっぱり、それだけじゃないもので。

委員 : ただ、今、触れざるをえんところ触れたわけね。

委員長 : それを言えばなしになっちゃうとね、一步進まないと思うんですよ。だから、戦略会議で、ビジョンで出しているものの枠の中にどうに引っ張りこんでいくかということを考えないと。私はいろいろ考えているんですけどね、パキスタンの人たちのひとつの集団で、なんかあの人たちが海王丸パークのところにパキスタン料理店でも出してくればね、あるいは、ロシア料理を出す、民間を誘導するわけですから、彼らはわれわれよりもお金をもっていますよ。ものすごいですよ。ある意味では、バックがね、すごいですよ。だから、戦略会議としてどんな風にこうまちづくりのところに持っていく委員会にしていくな、それはまあ、事務局と相談してからどういう具合にしたらいいのかまた、次回のところまでに、考えましょうよ。

委員 : そうですね、委員長を中心に話してもらって、本当の話をみんなでこう、出さなかったら。

事務局長 : なんか戦略会議で、国際化と、共存共栄という観点で、戦略会議としてまた定義してもらったりすれば、私ら事務局としてもやりやすいし。

委員長 : 次の質問をどうぞ。

委員 : あそこのパキスタンの人たちは、行政書士が必要なもんで、私の知っている方がそこ全部やってあげているんですが、いろんな話を聞くんですけど、月に2億とか3億の売上があるって、そんなこと言っていますから、税金はすごくいただけるんじゃないかと思います。

委員 : よろしいですか、えーつとですね、あの、第一段階で、大きいほうなんですけども、一枚目のところで、体験型宿泊施設、これなんですけども、関係機関の意見が合わない、それ以後進捗していない、これ、ちょっとあの、どういう相違があったのか、ちょっと見えてないので、説明をいただきたいのと、これからどうしていくのか、それを聞きたい。

事務局 : 体験型宿泊施設については、以前、ここに書いてあるように、二つの団体で実施しようと、できないかと、設置しようという話がございました

が、二つの団体とも同じような場所でやりたいと、競合してできないかと、そういうような話もあったわけなんです。二つの団体とも自分自身がやりたいと、そういうようなこと、場所についても、譲るような経過がなかったと、うまく話し合いができなかったという結論で、そのときは終わっております。それと、当然、現在、体験型宿泊施設なり、それから物販、レストランとかというものについては、複合的な施設として実施したい、というふうに思っております。ただその用地としては、現在考えられるのは、海王丸パーク内の交流拠点用地だというふうに思っておりますので、ただ、県さんの方針というものもございまして、そこは一体的な考え方で、どういう全体構想をまとめて、それで、提案してやっていくという話でございますから、ただ1事業者だけがこういう施設を作りたいと、いうことではなかなか進まないものですから、総合的なひとつの構想みたいなものを描いて、それに基づいた実施というものが今後必要になってくるのではないかと思っております。ただ、そういうふうなことばかり言っているだけでも、構想ばかりを描いておってもなかなか現実的には進まないという状況もありますので、実際、民間で、どういうような、そこで何かやりたいという人がおられれば、今後一緒に協力して、実現に向けてやっていきたいなというふうには思っております。ちょっと抽象的な話ばかりで申し訳ございませんが。

委員長：これは進行中ですか。

事務局：いや、これは進行中ということではなく、考えていかなければならないなということでございます。

委員長：今のを含めてね、わたしは、特に海王丸パークを中心として、現在いろいろな事業が、実際営業が行われているところは非常に大切にしたいし、後押ししたい。そうでなければ、まず新しい人は来てくれないんじゃないかという面もあるんですね。ですから、そういう人らにいろいろな現在の悩みだとか、こうやったらどうかというような、こういう考えで、こんな悩みを持っているだとか、そういう聞く会なんかも必要だろうし、あるいは、現場を私が見に行くと、いろいろ意見交換するものも必要だろうなという感じがします。特に、こう、全体として、ぜひ議論をしたほうがいいのではないかとというのは、集客機能のところですね、この施設ができるとしたら、体験型が、何ができるんですかというのがありますけど、ハードのものができたらそれで活性化ができるなんて、とても私は現状を見て思わないですね、今までの現状を見てきて。

大橋ができたから、4百数十億円のハードを作ったから活性化になるかといったら、どうかなというように思うんですね、いつも。むしろやっぱりソフトの面をこんなふうにご利用するだとかね、こんなふうなアイディアで営業したら、あるいは、こんなふうな結びつきをやったら、あるいは、旧市街地でどんどん内川沿いが進みつつあるものとの連携を考えて、なんかこうソフト的なものを、議論をしたいなというように思っておるんですが、集客機能のところに書いてあるいろいろなものを目指しながらですね、で、そのためにはここの戦略会議の委員で、今までこられている人がかかわっている団体だとかね、そういったところの活性化も同時にかかわれば、それはいいと思うんですね。先ほどの国際化なんていうのも出ているんですけども、新湊における、例えば国際化活動なんかもいろいろ悩みが多いと思うんですけども、それを海王丸パークの賑わいに結びつけるとしたらどうなのかということだとかかね、そういういろいろなものが出てくるようにも思うんですけども。

委員：新湊大橋ができたら、やっぱりあの、大きいからね、それなんかイメージ的に、今海王丸ですけど、二つあれば、遠いところの人もどんどん来ると思います。私以前なんか港湾の関係施設で、どういうところだったか、あそこで合宿していたんです、子どもたちとね。ずっと続いていたんですけど、ちょっと汚れてきたので、今は小矢部のサイクルセンターとか、あちらのほうで宿泊を何百人かでするんですけど、私はやっぱり、新湊の人間だからこっちによせたいんですけど、そういう場所がないのでね、やっぱり。あのときは映画撮影があつてね、撮影の現場とかを見せたりしてね。子どもたちが新湊に来て、なにか見せてあげたいと思っても、行くところがないんですね。だけど、新湊大橋へ行って眺められるとか、なんかあるとか。で、うちの店でなんか食べさせたりしているけど、それ以上にどこ行くかといったら本当はないもんだから、内川になんかできれば内川を歩かせたり、私としては他のまちに行かなくても新湊でしたいと思っているのにほんとにないもんだから。でもその港湾センターができたときに、そこは結構よかったですよ、広いですし。朝はそこへちょっと出て、海は危ないからここまでやよとか言ってしていたんですけど。港湾センターでしたか、なんか名前忘れちゃったけど、広間とかがあつて、200人ほど、100人ほどだったか、何百人か泊めたわ。2、3回に分けて。だから新湊にはそういうところを、ほかのまちに行くのは私いやなんです。やっぱり新湊を活性化させたいのに、そういうところがないし、そういうところを作ってほしい。小矢部のサイクルセンターまで私夏の合宿に、子どもが県外からも来るから、毎年そこで。そこで足りなくて今度二上山の上のほうになんか

あって、青少年の家でしょうか、新湊になんかを、やっぱり海と内川が近いから、新湊に来るからには、そんなビルのあんなところじゃなくて、なにかできればいいなといつも思っています。それともうひとつ、この前、海王バードパークのことで、どこかのおばあちゃんから電話かかってきて、怒ってらっしゃってね、私のほうにかかってきたんですね、それで、あんな鳥のなんかしているんでしょって言ってね、あなたところが経営しているんだろと言われるのね、それで、ぜんぜん私一回だけ行っただけだって言って、でも一回でも行ったんだったらあんな関係しているだろと言われて。そしたらもう苦情なのね、鳥の糞がね、なんで海のそういうところにそういうもの作ったんだって言って私が怒られるんです。でも経営してないんで、そこは違うと言っても、じゃあ、どこに電話すればいいんだ、あんな電話番号調べてくれとか、そしたら海王丸の事務所があるからそこ電話してくださいって言ったんだけど、あんなところにこんな近所中が非常に迷惑しているんだと、ここ2、3ヶ月前からひどくてひどくて、なにを考えているんだって私に怒られるんです。私は経営してないですけどって言っても、年寄りなので、もうだめなんです。言っても、電話番号調べろとか、あんなから市へ言ってあそこを取り除けとか、なにも知らないでああいうことをしていると言って、私に怒ってらっしゃるんです。なにを見て私に電話されたか知らないんですけど、私は困ってしまって、一回これを言わないといけないなと。非常にみんなが鳥の糞がひどくて、海のところになんでああいうものをおいたのかと言って怒ってらっしゃるんです。みんなこれ住民の意見だと言って、言われるんですけど、私に言われても、私、どこにも言うところがないし。

委員：　じゃあ県の管理が難しいってこと。

事務局：　県の管理です。

アドバイザー：　今は指定管理者ということで、海王丸財団のほうで管理していただいているわけですが、あちらはどちらかというと海沿いですので、お電話された方のところにきている鳥がよく分かりませんが、それがひとつの原因だということは、あるのかないのかそういうことはわかりませんが、私どもとしては野鳥と触れ合える場所として活用していただきたいと。

委員長：　野鳥のあれができた経緯というのは、最初はあれを作る予定はなかったんですよ。けども、あそこの空き地がずっと続いて、鳥が巣を作って

貴重な渡り鳥があるということで、野鳥保護会という、これも地元ですよ、新湊の野鳥保護会の団体が、委員会に押しかけてですね、作らないとだめだということで、最終的に前知事のと看、いよいよ何ヘクタールかを削って、住民の要望で作った施設です。その後、定期的に評価が出ているんですけど、非常に好評ですよ、あれは。ただ、問題があればそれは解決せねばならんとは思いますが、海王丸パークの財産ですよ。

委員：糞害というものはね、カモメですよ。野鳥園の鳥ではない。

委員長：それでは11時を過ぎたものですから、あと一人でもなにかあれば。

委員：先ほども出たんですけども、体験宿泊施設、私も以前同じようなことを申し上げたんですが、やはりなかなか新湊のまちなかにですね、例えばですね、研修をしたくても施設がないということで、セミナーをするのに困っておるところなんです。それから、最近ですと海外から交換留学ということで短期できますので、ホームステイしてもらう場合もあるんですけど、一週間ですとか、そういうところで研修をしながら、宿泊しながらですね、できる施設が非常に少ない。例えば、羽咋にあります、国立青少年センターですかね、そんなところに行っています。県外でやるっていうのは去年もあったんですが、地元にお金落ちないということ、そして賑わいが県外へ流れてしまうということともうひとつは学校としていろんなプログラムを実施するにあたって、無駄な移動時間がけっこうあるという、それから新湊にはこういう海王丸パークとか施設がありますのでね、なんか海を見ながら、対岸を思い浮かべてですね、セミナーが実施できるような宿泊施設というんですか、これはもう私早急にお願いしたいと思っておるところです。で、なかなかこういういい環境にありながら、なんで羽咋までや、なんで黒部まで行ってわざわざやらないといかんのかなといつも思っているんですよ。結局頓挫しておりますけれど、これは早急にですね、ちょっといろいろPRして、動いていただければありがたいなと思っています。それから、加えてですね、今海王丸ボランティアですけど、やはりあの、横浜のMM21の日本丸とのかなりあのボランティアが交流されておるんですね、それで、こっちから向こうへ行ったり、向こうからこっちへお見えになったりしても、これもやっぱり泊まる場所がない。ですからなんかそういう海王丸の施設の中に一体的な研修・宿泊というものを建てていただければ、もうちょっと賑わいが創出できるのではないかと考えています。ぜひ進めていただければと思います。

委員長：　どうもありがとうございました。いろいろ新年度に検討する案を出していただきました。そういったものをですね、特に海王丸パークを中心とした西側の賑わい、そして、東側での第二段階のところに行く賑わいに結びつくような検討を具体的にですね戦略会議として新年度にやっていったらどうかと思います。で、数多くのものが今出されたものですから、これはあの、ここに市の方々がおられて、市の中でやれることは検討されると思うんですけど、戦略会議としてもですね、検討をしていく必要があるんじゃないかと思います。その場合、皆さんの関心の度合いがいろいろあるもんですから、前にパンフレットじゃない、市内に誘導するワーキンググループを作りましたね、そこにここから委員にも出ていただいて、またそれをここで発表してもらったりして、いったように、テーマ数が多ければ、そういう形で委員がトップに立って、体験型施設について委員が中心になりながら関係者と一定の報告書をまとめる。というのも手じゃないかなと思うんです。ただ、問題のやる内容が重複している場合は、この戦略会議でやって、あるいはプラスしていろいろな意見を聞く人に来ていただいてという方法もあると思うんですが、そのあたりは今出た意見をちょっと整理してですね、新年度の最初の段階で皆さんに諮りたいと思うのですが、大体皆さんのほうからの発言のほうは新湊の現在よりも賑わいをどのようにしていくか、活性化をどうしていくかというところに絞られて、共通点に思いますので、そんなふうに準備をさせてもらいたいと思うのですが、よろしいですか。それではこのみなとまちづくり方策でじっくりと読んでおいていただいて、ぜひ少しでも前進を新年度させたいと思っております。それから次に移りたいと思います。次はですね、ちょっと時間のほうがなくなりましたけども、前からこの戦略会議で出ていた問題です。これはまさに皆さんに共通的なものになると思うのですが、港の景観ですね、景観といいますか、色、色彩の問題、あちこちの港ではかなり、とくに太平洋側ではやられ始めてはおるんですが、色彩の問題についてですが、一番進んでいると思われる、清水と広島があるんですけど、広島の方に事務局が行きまして、調べてきたものを報告してもらいます。これもですね、色彩の問題はこの戦略会議全体で議論を、新年度したいと思う、前からの課題になっているものですから、では事務局からお願いします。

事務局：　それでは景観、色彩関係について説明いたします。2月21日に広島港に立ち寄る機会がありましたので、広島港の景観計画、色彩計画というものについて、広島港湾振興局へ、県の組織なのですが、そちらのほうに行ってお話をお伺いしてきたことについて、今から簡単にご説明させていただきます。

す。この景観、色彩に関しましては、新湊みなとまちづくり方策、冊子でいきますと21ページになるのですが、新湊大橋の景観整備に関する方針を見ながら、臨海部の美しい都市への景観を保全、形成していく必要があるということで掲載されております。広島港なのですが、大きい港でございまして、特定重要港湾、コンテナの取扱数を比べるとあれなんです、2006年で15万7千TPUということで、コンテナの取扱数とすれば伏木富山港の約2.5倍程度の取扱を誇る大きな港です。背後地にはマツダ自動車、三菱重工という、ほんとに大きな、日本を代表する企業を抱えておりますので、そういった企業さんのお力で、コンテナの流通もすごく多くなっているということでございました。今回の景観の視察なんです、東海大学の東先生からの提案もございまして、広島港ということで選択をさせていただきました。広島港の選択に至った経緯なんです、比較的策定した年度が新しいということと、港まで路面電車が入っておるんですね、そういったところから広島港がよいのではなかと東先生からご連絡をいただきまして、広島港に行ってきたところでございます。広島港の関係なんです、平成14年度に広島港色彩計画実施についてという資料をみなさんにお配りしてございますが、平成14年度に色彩計画を策定しておられます。策定の経緯等に関しましてはこちらの資料をご覧いただければ結構なんです、平成14年度に策定いたしまして、15年度に1年間を要して、企業、地域住民の方々に広報活動を展開され、16年から運用を開始されておられます。色彩計画の策定の背景でございまして、工業港湾という人が近づきにくいというイメージから、水辺を生かして人々を集めるというような、癒し空間の創出ということへの転換を図る手段のひとつということで計画を策定されるにいたったということでございました。なによりも港湾の近く、臨海工業地帯で創業されている企業さんの協力の取り付けが一番重要だということを担当者の方はおっしゃっておられました。資料をいくつかつけてあるんですが、広島港色彩計画ということで、パンフレットをもらってまいりまして皆様にお配りしてございます。見ていただければよいのですが、広島港は割合大きな港でございまして、地区ごとにひとつの目標を立てまして、その目標にあったような色を企業さんをお願いしていこうという、これはあくまで今すぐやってくれというものではなくて、何年かに一度必ず塗り替え時期がございまして、そういったときに協力を願って、そういった色にしていっていただくということで、観光港というイメージももちろんありますから、船で港へ入ってきたお客様がその港にどれだけぬくもりを感じられるか、とてもきれいな港だなと感じていただけるか、というところも景観、色彩の計画のひとつの基準となっております。ひとつの例としてプリントアウトしたものをつけてございますが、

その色彩の変更と同時に人々を集めよう、賑わいをつくろうということで、例えば港湾施設を交流施設に転換した一例ということなのですが、従前は県営の倉庫を民間の資本を利用して、きれいな、人が集まりやすいような、喫茶店や古着屋などに転換して人を集めようということの一種でございました。もうひとつは、東先生にぜひ見てくださいと言われたんですが（資料を見て）、宮島は何度も高潮被害受けておりますが、その高潮ゲートということで、こういった形で高潮を防ぐようなゲートを設置して景観に配慮しているわけです。普通の場合は普通の道路と同じなわけですが、高潮がきたときにはこうしてあげることです。普段は普通の道なんだそうです。そういったところで景観の配慮をされております。これはちょっと色彩とは関係ないんですが。ちょっと戻って、色彩計画についてなんですが、もちろんこれは伏木富山港という特定重要港湾なので、富山新港だけで決めていく問題ではないと思いますし、もちろん港湾管理者さんのご意見等もございますので、これからは港から入ってくる観光の交流振興というものの増加も旅客船バースもございますし、今後見込まれることもあるという考えから、港の景観ということに対しても今後検討していく課題ということで今回視察させていただきました。以上でございます。

委員長：　どうもありがとうございました。一応新年度にぜひ前からの議題になっていた取り組む事項、またこれ詳しくですね、議論が出てくると思いますが、事務局が行ってきたまさにあたたかいうちにこういう状況だという資料を事前に皆さんにお渡しして次回新年度に備えたいと思っております。また、考えてこの富山新港においてはこういう色彩をどういうようにもっていくかというものでございます。それではちょうど20分になったものですから、今日の議題としては、その他としてなにかございますか。

事務局：　ひとつ訂正といいますか、申し訳ありませんが報告させていただきます。先ほど第1段階の事業の現状ということで、川の駅が今秋に完成するという予定で努力しておりましたが、実は建設予定地の埋設物が多くて、ちょっと相当戸惑っております。そういう意味で冬場に完成させても意味もないものですから、3月までずらして来年度いっぱい完成させたいということが一つです。そういうことも含めて若干建設費の変動等もありうるものですから、誘導案内板ですね、全部を20年度中にできるかどうかはちょっとそのへんはその他の事業とのからみの中ですね、場合によっては一部を次年度以降にまわしてもらおうということもありうるということで、ひとつよろしくお願いします。

委員長　：　それではオブザーバーで来てくださっている、国交省伏木富山港湾事務所と県から、なにか。

アドバイザー　：　国際交流の活性化ということでは、ハードの施設では時間がかかるので、例えば国際屋台村みたいなイベントをですね、パキスタンとかロシアの方に来ていただいて、そういったものをきっかけとして、人と人との交流の中で、不協和音がでているものもひとつずつ改善していったらいいのではないかとそういうふうに思いました。それから、やはり今後ハードというところでは、この間、氷見のフッシャーマンズワープも行きましたけど、やはり駐車場があって、物産もあって、食べるところもあるということで、平日に行きましたけれども、入り口のところに歓迎ということで5枚ぐらい、5団体がそこにバスでやってきているということも。また、同じみなとオアシスの魚津のほうですね、そこも物販施設があるんですけど、あそこはいつもいくと3枚くらいたっていると。海王丸パークも大きな駐車場があって景色がいいんで、そういった施設ができてちゃんと観光業者ですね、誘致をかければまあそのぐらいは来てくれるかなと思いますんで、これからの検討課題だと思います。

アドバイザー　：　まちづくり戦略につきまして、ソフト面を中心にやはり話をしていったほうがいいのかなと、ハード面につきましては当然県としてやっていくことは基盤整備などをやっていきますし、その辺はプラスアルファのところは市さんと協力をしながらよりよいものにしていきたいと思っております。それと、さきほどからいろいろ中古車等の話にでております、私どもその辺の動向については非常に注視しておりまして、かといいいながらもやはり、中古車を集めるということに関しては集められた地域の問題も発生するというので、非常に慎重に取扱うことであろうと思っております。これについては県もいろいろやっておりますので、それについては少しゆっくり県の中で検討しておりますので、よろしくお願いします。あと最後にいただきました色彩計画でございます。これはどちらかといいますと、港を中心に、各港でやっておられますけど、県のほうでは、県の景観条例というものがあります。思ったのは、港のというよりは、どちらかという射水市のまず景観をどうするのか、その中で港の景観をどうしていくかそういうふうにしていけばいいのかなという気がしております。簡単ですが以上でございます。

委員長　：　それではこの第9回新湊みなとまちづくり戦略会議をこれで終わりにしたいと思います。ぜひ新年度に向けて、今日いろいろ出た問題等を考え

ていただいてですね、新しい段階の議論に入れるように諸準備をお願いしたい
と思います。それでは事務局のほうにお返しいたします。

事務局　：　委員長どうもありがとうございました。次回の会議につきまして
は、4月以降に随時開催していきたいと思っております。ご案内を差し上げま
すので、またぜひよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。